

市場動向

■USD/TWD



■USD/JPY



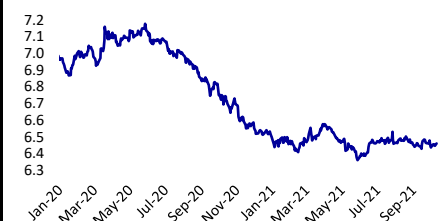
■JPY/TWD



■EUR/USD



■USD/CNH



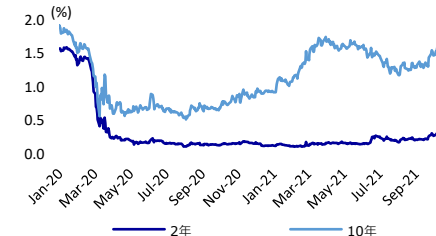
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初10/12は28.060でオープン後、インフレ懸念や米企業決算発表前の不確実性による金利高株安の影響を受け、リスク環境の悪化で台湾株も売り優勢の展開。こうした中、外国人投資家のドル買いフローが増加し、台湾ドルは一時約半年ぶりの安値を更新し、28.165まで売られた。その後も、大手ハイテク企業の配当金送金需要に伴うドル買いフローがあったものの、週後半に向け、経済指標の改善や金融セクターを中心とした米企業の決算結果が概ね良好であることから、米株をはじめとしたリスク資産の買い戻しとともに、リスクオフのドル買い需要が減少。更に、輸出企業もこうした環境を受け、様子見ムードから一変し、ドル売りを再開させたため、ドルは再び節目である28価格近辺まで反落、28.027で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は60.8億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円相場は週半ばにかけて上昇、約3年ぶりの高値を付けた。週初は週安値圏である112円台前半で取引を開始。この日は米国市場が休場ながらも日本や中国株の反発を背景にドル買優勢の展開となり、ドル/円は113円を突破。その後もドル買いの流れが続くと113円台後半まで上昇した。週央に発表された米9月消費者物価指数が概ね市場予想通りだったことや、堅調な米30年国債の入札を受け、米10年債利回りが低下し、ドル/円も113円台前半まで下落。同日発表された9月のFOMC議事要旨では、11月のFOMCでテーバリングが決定される場合、11月半ばもしくは12月半ばに150億ドル/月のペースでテーバリングが開始される可能性が高いことが明らかになった。後半は米新規失業保険申請件数が2020年3月以来最少だったことや、米9月卸売物価指数が市場予想を下回ったこと、さらに米大手金融機関による好決算を背景に米国株が上昇し、リスク選好の動きから円が売られた。週末に発表された米9月小売売上高が予想に反して増加すると、米株が続伸し、ドル/円は一時114.47円と約3年ぶりの高値を更新した。その後、114円台前半でクローズ。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ: 27.950-28.100

リスク材料とされたインフレ懸念や決算報告は杞憂に終わった或いは織り込み済みと見る市場参加者が多く、暫くリスクオフのドル売りが先行する見込み。しかし、サプライチェーン混乱を受ける消費者関連の企業決算が今後発表されるなど、油断できない状況から、ドルの下値も限定的となるだろう。

■USD/JPY 予想レンジ: 113.00-115.00

市場はFRBの年内のテーバリング開始、さらに来年9月までの利上げを完全に織り込んでいる。今週は多くの米当局者が発言するが、タカ派的な発言が続き、来年の複数利上げを織り込む展開となるとドル/円はもう一段の強い上昇圧力が加わるだろう。

今週の予定

10/18 (MON)	中国第4半期GDP、中国9月小売売上高
10/19 (TUE)	米9月住宅着工件数
10/20 (WED)	台湾9月輸出金額
10/21 (THU)	米9月中古住宅販売件数
10/22 (FRI)	台湾9月失業率

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。